

令和6年度 徳島市川内中学校 総括評価表

		自 己 評 価					学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評 価 指 数 と 活 動 計 画			評 価			
1 学習指導 確かな学力の向上	①個に応じた指導の工夫(わかる授業・楽しい授業の工夫) ②主体的・対話的で深い学びの実現(言語活動の充実) ③ICTを活用した個別最適で協働的な学びの工夫	評価指標			評価指数の達成度		総合評定	・第1回運営協議会で全教室参観したが、みんな一生懸命に学習に取り組めていて、とても良かった。先生とのコミュニケーションもよく取れていた。 ・学校における授業等の指導は、よくできていると思います。自分の意見を説明したり、表現したりする力を育成していくことが大切だと感じました。 ・全体的に学習習慣は形成されており、個々の生徒の能力や意欲にも応じて指導することも工夫されている。上記にあげたことがさらにクオリティが高まるように、アクティブラーニングやICTのさらなる活用や取組の工夫を重ねていただきたい。 ・学習に対する先生方の努力が感じられます。 ・家庭学習の習慣に対しては、各家庭での子どもとの向き合い方ではないかと思います。中学生にもなって・・・と思われがちですが、やはり連携は必要と感じます。 ・対話力の向上に取り組む中、自分の考えを説明したり、積極的に発表したりすることに苦手意識を持つ生徒も多いとのことでしたが、それぞれの個性を活かし、その子に合った表現方法が見つかるのではないかと思います。言葉で伝えるのが得意な子、文章やイラストで伝える方が好きな子、プレゼン資料や動画での表現など、今は色々な伝える工夫ができると思います。色々なパターンを取り入れながら、何かしら自分を表現する方法が見つかると思います。
		①-1 生徒	「授業開始のチャイムが鳴った時には、授業準備をして着席している」	①-1 A (93%)	(評定) B (所見) 「チャイム着席」や「授業の準備」などの学習規律や、提出物の提出など、授業に対する基本的な取組姿勢については概ね定着している。学習の遅れがちな生徒への適切な支援や、学習意欲の高い生徒への発展的な指導などは昨年度より達成度が向上しており、個に応じた指導の工夫が行われた。一方で、授業内容の理解度には課題があり、今後も基礎・基本の習得や個々の習熟度状況に応じた授業改善が必要である。授業では話し合い活動の場を意図的に設定するなど、対話力の向上にも取り組んだが、自分の考えを説明したり積極的に発表したりすることに苦手意識もつ生徒が多い。また、宿題以外の勉強をする習慣が身に付いていない生徒も多く、生徒自らが主体的に取り組むような工夫が必要である。学習効果のある工夫と授業改善の手立てとして、1人1台端末を活用する教師が増えた。ドリル学習や協働的な学びの場での活用、長期休業期間中における課題での活用などに取り組んだが、今後も更に様々な場面で活用を進める。			
		①-2 生徒	「提出物を確実に出せている」	①-2 A (86%)				
		①-3 生徒	「授業の内容が理解できている」	①-3 B (82%)				
		①-4 教師	「学習の遅れがちな生徒に、適切な支援をしている」	①-4 B (79%)				
		①-5 保護者	「生徒の学力向上に向けて熱心に取り組んでいる」	①-5 B (80%)				
		①-6 教師	「授業のめあてを示し、振り返りの時間を確保している」	①-6 A (90%)				
		①-7 生徒	「先生はよく分かる授業を実践してくれる」	①-7 A (90%)				
		①-8 教師	「基礎・基本を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力等を育成するため授業改善に努めている」	①-8 A (93%)				
		①-9 教師	「学習意欲の高い生徒に、発展的な指導をしている」	①-9 A (93%)				
②-1 生徒	「自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている」	②-1 C (52%)						
②-2 教師	「授業で話し合い活動を取り入れ、対話力や合意形成の力を育成している」	②-2 B (82%)						
②-3 生徒	「自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる」	②-3 B (80%)						
②-4 生徒	「宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている」	②-4 C (58%)						
②-5 保護者	「家庭学習の習慣が身に付いている」	②-5 C (55%)						
③-1 教師	「生徒の理解を深めたり、協働的な学びをしたりするために、1人1台タブレット端末を活用している」	③-1 C (68%)						
		活動計画		活動計画の実施状況				
		①-1 「チャイム着席」「授業の準備物」「正しい姿勢」「授業に集中」「授業のルール10か条」を掲示するなど可視化し、徹底する。	①-1 A (100%)	①学習規律の徹底、授業展開の基本、定期テストへの取組など、校内で共通理解を図りながら取り組むことができた。				
		①-2 定期テストで基礎基本の問題で確認する。	①-2 A (89%)	②読む力、書く力、聞く力、対話する力の向上を意図して学習活動を展開したが、自ら積極的に伝えようとする態度の育成に課題がある。				
		①-3 「目標の明示」→「課題解決のための学習活動」→「振り返り」	①-3 A (100%)	③徳島ICT活用モデルを参照し、各教科において、学習効果のある工夫や授業改善の取組のひとつとして1人1台端末の活用に取り組んだ。				
		①-4 徳島県学力向上プリントの計画的な活用、プラス1課題の実践	①-4 B (82%)					
		①-5 各教科で取り組む一点突破の学力向上方策	②-1 A (100%)					
		①-6 テスト前に「学習記録表」にて目標を設定し、学習状況を記録する。	②-2 A (100%)					
		②-1 徳島新聞「鳴潮」の視写を週1回行い、読む力、書く力を身に付ける。	③-1 A (89%)					
		②-2 各教科で教科書を読むなど、音読を取り入れ、聞く力、話す力を身に付ける。	③-2 A (100%)					
		③ ICT等、学習効果のある工夫と授業改善	③-3 A (100%)					
2 道徳・人権・特別支援教育 豊かな心の育成	①人権教育の推進(いじめや差別のない温かい人間関係の推進) ②道徳教育の推進(人間としてよりよく生きようとする態度の育成)	評価指標			評価指数の達成度		総合評定	・いじめを受けている人を見たら助けようと心がけているという項目が、昨年度から6%も上昇しているのはとても良い。 ・SNSの実態も把握していただけだからと思う。 ・人権教育ではしっかり指導が行われ、生徒の人権意識が高まっていると思います。特別支援教育では、一人一人に寄り添った教育
		①-1 教師	「生徒の発達段階や生活背景を理解し、全教育活動において人権教育の推進に努めている」	①-1 A (100%)	(評価) A (所見) 各学年の発達段階や実態に応じ、計画的な取組を展開するとともに、教師が一丸となって人権教育の推進やい			
		①-2 生徒	「いじめや暴力を受けている人を見たら助けようと心がけている」	①-2 A (89%)				
		①-3 教師	「いじめや他の問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」	①-3 A (100%)				
		①-4 保護者	「いじめや暴力のない学校づくりに努めている」	①-4 B (82%)				
		②-1 教師	「生徒の礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を常に心がけている」	②-1 A (100%)				
		②-2 教師	「生徒の人格を尊重し、言葉を大切にして生徒を指導したり、接したりしている」	②-2 A (100%)				
		③-1 生徒	「先生は相談したら誠実に対応してくれる」	③-1 A (89%)				
				③-2 A (100%)				
				③-3 A (100%)				

	<p>③特別支援教育の充実（個々のニーズに応じた支援）</p> <p>④読書活動の充実</p>	<p>③-2 教師 「一人一人の生徒の状況を把握し、生徒理解に努めている」</p> <p>③-3 教師 「保護者からの連絡や相談に、迅速かつ適切に対応している」</p> <p>③-4 教師 「保護者と連携し、適切に情報を交換しながら生徒の成長を支援している」</p> <p>③-5 保護者 「学校は保護者からの連絡や相談、面談に誠実かつ適切に対応している」</p> <p>活動計画</p> <p>① 年間指導計画を見直し、人権に関する講演会や人権集会を充実する。</p> <p>①-1 研究授業の充実</p> <p>①-2 道徳教育の推進・充実</p> <p>①-3 人権教育の推進・充実</p> <p>② 全教育活動を通して、礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。</p> <p>③-1 校内支援委員会の適宜開催や巡回相談を活用し、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>③-2 全ての生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進するとともに、引継シートを学年・学校で共有したり、個別の教育支援計画・指導計画を作成し効果的に活用したりする。TTの効果的な指導のあり方を考える。</p> <p>④ 読書への興味や読書習慣を身に付けるために、本の紹介を取り入れたり、冊数調べをしたりする。</p>	<p>③-4 A (100%)</p> <p>③-5 A (92%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①年間指導計画を見直し、研究授業を各学年で実施した。また、外部講師を招聘するなど、質の高い授業づくりに努めた。</p> <p>②言葉を大切にした指導や関わりを教師自身が心がけて実践することができた。</p> <p>③校内支援委員会を適宜開催するとともに、引継シート等を活用しながら学校全体で情報共有を行った。</p> <p>④朝読書を実施したり、図書だよりを毎月発行し様々な本を紹介したりした。</p>	<p>じめ等の早期発見・早期対応に取り組むことができた。生徒においても、日常生活で意識的に行動しようとする態度の項目が向上した。いじめや暴力、差別を許さない学校づくりをさらに推進する。</p> <p>礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を通して、自他を大切にする心を育む指導を今後も継続する。</p> <p>生徒の状況把握や生徒理解、情報共有に努めるとともに、保護者からの連絡や相談等に対応することができた。生徒のSOSを見逃さず、学校全体で生徒を見守る組織づくりに努める。</p> <p>朝読書等を含めた平日の読書時間が10分未満の生徒が2割程度いる。今後も工夫しながら読書活動を推進する。</p>	<p>ができています。</p> <p>・人権意識や道徳精神は多くの生徒に浸透していると感じられる。ただ、中には様々な事情や背景から、適切に学習することが困難なケースもあると思われる。その場合、人権教育の手法だけではなく、臨床心理学的な側面からも工夫をすることも大切だと思われる。</p> <p>・さくら作品展をのぞいてみました。各校ともに手温かい指導に頭が下がります。</p> <p>・早期発見、早期対応は、子どもたちにとっても頼れる大人、学校があるという安心感につながると考えます。</p> <p>・コロナ以前に実施をしていた保育園との交流授業や他校では復活している職業体験など、また川中らしい形で実現したら良いなと思います。普段関わらない人たちと触れあうことで、新しい自分に気づけたり、違った感情を感じたりする機会になりそうです。</p>	<p>で、言葉づかいや礼儀、マナー等を適切に指導し、仲間を大切にできる態度を育成する。</p> <p>・特別支援教育に関する校内研修の充実を図る。</p> <p>・読書活動のさらなる充実に向けて、生徒会図書委員会を中心に啓発活動や図書室の運営を行う。長期休業期間を利用した読書活動の推進や実態に応じた規模でのビブリオバトルなどを検討する。</p>
<p>3 健康・安全指導</p> <p>安全・安心な学校</p>	<p>①生徒の交通マナーの向上(JNK充実/登下校の安全確保)</p> <p>②防災教育の推進</p> <p>③感染症対策</p> <p>④環境教育の推進(SDGsの視点)</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒 「交通ルールを守り、登下校している」</p> <p>②-1 教師 「安全教育や防災教育の意義を知り、生徒の安全のために取り組んでいる」</p> <p>②-2 生徒 「避難訓練や防災訓練に真剣に取り組んでいる」</p> <p>③-1 生徒 「毎日、朝食を食べている」</p> <p>③-2 保護者 「毎日、朝食を食べている」</p> <p>③-3 生徒 「毎日、十分睡眠がとれている」</p> <p>③-4 保護者 「夜更かしをせず早寝早起きをしている」</p> <p>活動計画</p> <p>① 交通指導計画に基づき、交通指導を徹底する。自転車通学生のマナーの遵守交通安全教室を実施する。自転車特別許可について指導や見直しを行う。</p> <p>② 避難訓練では南海トラフ地震の対応を行う。授業中、休み時間、部活中など様々な場面を想定し訓練する。防災委員会による生徒の主体的な活動を行う。</p> <p>③ 食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。</p> <p>④ SDG sを視点とした委員会活動を主体的に行う。</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (97%)</p> <p>②-1 A (100%)</p> <p>②-2 A (93%)</p> <p>③-1 A (92%)</p> <p>③-2 A (92%)</p> <p>③-3 B (76%)</p> <p>③-4 C (52%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①JNKを全校で推進することができた。</p> <p>②様々な場面を想定して避難訓練を実施した。校外で活動する部活動の避難訓練も実施した。</p> <p>③食育アンケートを実施し、生活習慣の確立に向けた啓発活動を継続した。</p> <p>④委員会活動では、SDG sの視点を取り入れて目標を立てるなど、各委員会で工夫して取り組んだ。</p>	<p>総合評定</p> <p>(評価)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>交通指導計画に基づきながら、交通安全教室を実施した。JNK制度の点検・見直しをしながら、生徒が主体となった活動を今後も継続する。</p> <p>年間3回の避難訓練や防災学習の日、生徒会防災委員会の常時活動に加え、校外で活動する部活動の避難訓練も実施した。生徒の防災意識も定着している。</p> <p>毎日朝食を食べている生徒の達成度が向上しており、実生活への実践につなげることができた。生活習慣の確立に向け、メディアコントロールについても長期休業期間中に実践したが、今後も継続した取組が必要である。</p> <p>今後も、委員会活動を中心にSDG sへの取り組みを継続し、生徒の意識を高める。</p>	<p>・学校外での自転車の乗り方がよくなっていると思う。</p> <p>・登下校時に気になる自転車の乗り方を見かけることがなくなったように思います。生徒が主体となった活動が成果につながっていると思いました。</p> <p>・交通安全教育や防災教育については、良く取り組んでいると思われる。</p> <p>・食育やSNS等による健康被害への予防教育については、さらなる工夫と取組が必要だと思われる。</p> <p>・大きな事故もなく、登下校できていることは何よりもありがたいです。防災教育も含めて、自分の命は自分で守ることが大切だと考えます。</p> <p>・「彼等がやがてリーダーになる」最近防災の学習等に参加してあらためて感じます。</p> <p>・スマホ、ゲームによるトラブルには、保護者との協力が必要です。</p> <p>・防災教育の更なる取組として、「防災クロスロード」や「避難所運営カードゲームHUG」などもおすすめです。どちらも、自分ごととして防災意識を高められますし、大人も一緒にできるものでも</p>	<p>・交通事故ゼロに向けて、JNKをさらに推進し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組む。生徒会交通委員会を中心とした啓発活動を継続する。</p> <p>・教師や生徒が自ら考えて行動する場面を想定した避難訓練を実施したり、生徒会防災委員会を中心とした活動を展開したりすることで、防災意識の向上と地域の防災リーダーとしての資質や能力を育成する。</p> <p>・保護者と協力しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣のさらなる定着ならびにスマホ等のメディアコントロールの育成を図る。生徒会保健委員会を中心に啓発活動を推進する。</p> <p>・委員会での話し合い活動を充実させたり、活動の成果を可視化したりするなど、生徒の主体的な行動を促進する。</p>

							あります。いつ起きるかわからない災害に対して、生徒が自ら考え、選択し、行動できる力を育むためにも、学校での防災教育は大変ありがたいです。防災士講座の実施なども良いかもしれません。	
4 生徒指導 たくましく生きる力の育成	①心に寄り添う生徒指導の充実（報連相・関係機関との連携） ②生徒が主体的に活動できる場の充実（学校行事・生徒会）（自己肯定感・自己有用感の高揚） ③キャリア教育の充実（社会的自立に向けた能力の育成）	評価指標	①-1 保護者 「学校は規則遵守に適切な指導を継続している」 ②-1 生徒 「学校へ来るのが楽しい」 ②-2 保護者 「学校へ行くことを楽しみにしている」 ②-3 生徒 「授業の始めと終わりや校内外でのあいさつができています」 ②-4 生徒 「学級で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」 ②-5 生徒 「自分の机やロッカーの中の整理整頓を心がけている」 ②-6 生徒 「係等の仕事にまじめに取り組み、学級の役に立っている」 ②-7 生徒 「責任をもって掃除をしている」 ③-1 生徒 「将来の夢があり、目標をもって生活している」 ③-2 保護者 「家庭で手伝いをしている」 ③-3 生徒 「自分の進路について真剣に考えている」 ③-4 保護者 「進路や将来のことについて話をしている」	評価指数の達成度	①-1 A (91%) ②-1 A (87%) ②-2 B (81%) ②-3 B (83%) ②-4 B (81%) ②-5 A (86%) ②-6 A (86%) ②-7 A (92%) ③-1 C (68%) ③-2 C (58%) ③-3 B (78%) ③-4 A (87%)	総合評定 (評価) B	・文化祭で、みんなで力を合わせて盛り上げている姿が良かった。 ・ほとんどの生徒は規律正しく、楽しい生活が送れていると思います。生徒指導については、先生方には素早い対応で適切な指導をしていただきました。 ・学校としては、かなり努力していると思われる。ただ、生徒自身の主体性や決断力は、強い指導からは育み難い側面がある。子どもたちが主体的、自律的に取り組むチャンスを的確に保障し、子どもたち自身が丁寧に試行錯誤できる工夫が望まれる。 ・生徒会の活動が前面に出ていて感動した1年でした。主体的な活動の背景には、信頼関係がしっかりできていたと感じられました。 ・キャリア教育については、職業体験の実施や様々な業種の大人に触れあい、話をきく機会や自分で仕事を創り出している人などのワークショップの実施なども刺激になるかもしれません。	・日常の生徒観察や教師間の情報共有を密に行い、年3回の生徒アンケートを活用して、早期発見・早期対応・保護者や関係機関との連携をさらに推進する。 ・カウンセリングマインドの考え方や姿勢を意識したり、ポジティブ行動支援の手法を取り入れたりしながら、生徒の思いに寄り添った支援を継続する。 ・不登校生徒の支援として学習室を組織的に運用する、スクールカウンセラー等と連携して心のケアを図るなど、社会的自立や状況の改善に向けて支援を継続する。 ・授業のあいさつや登校時のあいさつなど、生徒会が主体となって行う取組を検討する。 ・生徒が活躍できる場を創出するなど、自己肯定感や自己有用感を育む。 ・出前授業等をさらに活用するなど、キャリア教育の推進を図る。
		活動計画	① 学期に1回生活アンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに、生徒指導委員会を通して、生徒の把握や情報の共有化を図る。 ②-1 学級生活や係活動・委員会活動を通して、当たり前のことが当たり前に行えるよう指導する。 ②-2 登下校の際、教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。授業の始め、終わりの挨拶を丁寧に。「ありがとうございました」→「礼」を意識化 ②-3 学級活動で学級目標やルールを作成したり、学級の問題を話し合いで解決したりする。 ③-1 各教科等でキャリア教育の視点を取り入れ、キャリアパスポートを効果的に活用する。 ③-2 3学年間を見通したキャリア教育全体指導計画を見直し、キャリア教育に関する講演会を実施する。三者面談を有効に活用する。	活動計画の実施状況	①学期に1回生活アンケートを実施し、情報の共有を図るとともに、気になる事項は早期対応に努めた。 ②係活動や清掃活動などを通して、役割の遂行を指導・支援した。また、学校生活の様々な場面において、あいさつ指導を継続した。 ③キャリアパスポートの活用やキャリア教育に関する講演会を実施した。	(所見) 保護者や関係機関と情報交換を密に行いながら、初期対応に取り組んだ。今後も連携強化に継続して取り組む。 ポジティブ行動支援や生徒主体の取組となることを意識しながら取り組んだが、生徒自身が学校生活を楽しみ、主体的に活動していることを感じられるよう指導や支援を継続していく必要がある。 キャリア教育に関する講演会では、県内企業から外部講師を招聘し、働くことの意味等について深く考える機会となった。今後も発達段階や実態に応じて、外部機関と連携しながら取り組む。		
5 開かれた学校 地域とともに歩む学校	①積極的な情報交換・情報発信(きめ細かな家庭連絡・HP等) ②地域の人的物的教育資源の活用 ③学校運営協議会の活用 ④学校評価による改善	評価指標	①-1 保護者 「学校は情報提供が適切である(お便り、マチコミメール、ホームページなど)」 ①-2 生徒 「連絡プリント等を確実に家庭に届けている」 ②-1 保護者 「学校は家庭への連絡やPTA、地域との連携ができています」	評価指数の達成度	①-1 B (79%) ①-2 B (81%) ②-1 A (87%)	総合評定 (評価) B	・町民運動会や文化祭に多くの生徒が参加できたのは、とても良かった。 ・地域の人から中学校の様子(長寿命化工事、行事等)について尋ねられることがありましたが、学校運営協議会で説明していただくことで、話をすることができました。 ・昔に比べ、学校が地域の拠点としての機能が弱くなってきている。そのため、学校行事が地域の行事として認識されにくくなっているようにも感じる。難しい課題であるが、地域における学校の役割を再度掘り下げて考えていく時期かもしれない。 ・地域にも頼もしい人材は存在すると思います。共に考え、共に努力しましょう。 ・情報共有は大切だと考えます。 ・コミュニティースクールに向	
		活動計画	① 学年だより、個別メール、ホームページ等を充実させ、必要な情報を保護者、地域と共有する。 ② PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。また、地域の人材を活用したり、地域の行事に参加したりする。 ③ コミュニティ・スクールの体制を整備し、学校がめざす姿を地域と共有する。	活動計画の実施状況	①月ごとに学年だよりを発行したり、生徒の活動をウェブページに掲載したりするなど、情報共有に努めた。 ②PTAの学校行事への協力や生徒の地域行事への参加等、積極的な関わりができた。 ③学期ごとの学校運営協議会により、体制を整えることができた。	(所見) 活動報告や校長室だよりなど、ウェブページを定期的に更新することができた。マチコミメールの有効活用を検討する必要がある。 PTA奉仕作業、町民運動会、町民文化祭など、教師や生徒が積極的に参画できた。 学期ごとに学校運営協議会を開催し、地域と協力しながら学校運営に取り組むことができた。		

					<p>けた資料づくりやご準備ありがとうございました。ご多忙中、わかりやすくまとめていただき感謝です。もし可能であれば、事前に資料を配布していただくと、質問や意見などを用意した上で会に参加できるので、より効率よくみなさんと対話もできそうな気もしています。マチコミメールは、活用していただけると保護者としても連絡もれがなく、子どもにも確認しやすいので助かります。</p>	
--	--	--	--	--	---	--

評定の基準 A : 十分達成できた (100~85) B : おおむね達成できた (84~70) C : 達成できなかった (69~)